資料１－２

平成３０年１月

林大臣のユネスコ総会出張について

１．日程

１１月３日（金）

２．出席者

林文部科学大臣

３．用務先

フランス（パリ）

４．概要

２年に１度開催されるユネスコの最高意思決定機関であるユネスコ総会に出席し、我が国を代表して一般政策演説を行うとともに、本総会中に就任が承認される予定のアズレー次期ユネスコ事務局長候補（前フランス文化・通信大臣）と会談を行った。「世界の記憶」については、一般政策演説において、事業の本来の意義を再確認するとともに、ユネスコに対して、事業の包括的な見直しに取り組むよう求めた前回執行委員会の決議を歓迎し、我が国としても役割を果たしていくことを述べた。また、我が国の財政支援により創設された「ユネスコ／日本ＥＳＤ賞」の授賞式に出席した。

①一般政策演説（演説全文は別添）

・全省庁を挙げて行う我が国におけるＳＤＧｓの推進

・ＳＤＧｓ達成に向けたＥＳＤの更なる推進と、事業間の連携を通じた科学分野におけるＳＤＧｓの推進を期待

・「世界の記憶」事業の包括的見直しを求めたユネスコ執行委員会決議を歓迎

・ボコバ事務局長の８年間の尽力に感謝するとともに、ユネスコが加盟国間の友好と相互理解を促進していくよう、新事務局長の下で積極的に貢献

②アズレー次期事務局長候補との会談

・林大臣から、ユネスコの過度の政治化への懸念、米国の脱退表明も念頭においたユネスコ全体の改革の必要性、SDGsの重視について伝達。

・アズレー氏より、３点について理解するとともに、「世界の記憶」について、事業全体の改革とともに、個別の案件について、当事者間の対話を促進する仕組みについて検討したいとの発言あり。

③ボコバ事務局長との会談

・林大臣より、ボコバ事務局長の８年間の功績及び「世界の記憶」事業の制度改善に関するユネスコ執行委員会決議の採択に向けた努力に謝意。

・ボコバ事務局長より、2010 年の来日時における学校訪問や、ＳＤＧｓへのＥＳＤ記載について日本の努力に感謝する旨発言。

④第３回ユネスコ／日本ＥＳＤ賞授賞式

・「ユネスコ／日本ＥＳＤ賞」は、我が国の財政支援により、2014 年のＥＳＤに関するユネスコ世界会議時に創設を公式発表したもの。世界のＥＳＤ実践者の取組に対して国際公募を行い、毎年、特に優れた取組３件を表彰（1件当たり賞金５万米ドル）

・林大臣から、ヨルダン、ジンバブエ、イギリスからの受賞団体に賞金を授与。

第39回ユネスコ総会
林文部科学大臣　一般政策演説
（2017年11月3日　ユネスコ本部）

参考訳

ユネスコ総会議長、
ユネスコ事務局長、
各国代表団の皆様、

まず初めに、議長の就任を心からお慶び申し上げます。

（はじめに：多様かつ複雑な世界におけるユネスコへの期待）

議長、

世界が多様かつ複雑化し、地球規模の課題への対応が求められる中、平和で持続可能な社会の構築を希求するユネスコの果たすべき役割は、これまでになく大きくなっています。こうした中、このたびの第39回総会は、新たな事務局長を任命し、今後のユネスコの進むべき方向性を決める極めて重要な機会です。我が国としては，新しい事務局長のもとで，今後のユネスコが進むべき道を共に歩んでいきたいと考えています。

（我が国における持続可能な開発目標（SDGs）の推進）

議長、

2015年に採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、持続可能な世界の実現のため、先進国と開発途上国が手を携え、一丸となって取り組むことによって初めて実現する、2030年までに達成すべき世界との約束です。我が国では、総理大臣を本部長、全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」の下、国内施策と国際協力の双方において、全省庁を挙げた取組を進めています。

（教育と科学を通じたSDGsの推進）

議長、

SDGsの達成には、持続可能な社会の構築という、単純な解のない共通の目標に向け、分野の壁を越えて連携していくことが不可欠です。

我が国が推進してきた持続可能な開発のための教育（ESD）は、分野横断的な取組を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、人材育成を通じてSDGs17ゴール全ての達成に寄与するものです。我が国は、「グローバル・アクション・プログラム」や「ユネスコ／日本ESD賞」の実施を引き続き支援してまいります。また、SDGs達成に向け今後は、2030年を見据えたESDの後継戦略の策定が不可欠であり、ユネスコの努力を期待しています。

科学分野においても、事業間の連携を通じた相乗効果を生み出し、地球規模課題の解決を図ることが重要です。「サステイナビリティ・サイエンス」のような分野横断的かつ統合的なアプローチを取り入れて、これまで顕著な実績を有しており、SDGsの達成に向けても主要な役割を果たすことが期待される海洋分野や水分野の事業連携による減災や気候変動対策の取組や、ユネスコエコパークやユネスコ世界ジオパークの協働による人間と自然の調和の活動等をより一層促進することにより、複数のSDGsのゴール達成に取り組むことをユネスコに期待します。

我が国では、こうした分野での取組を更に進めるとともに、特にユネスコが優先分野とするアフリカとジェンダーへの貢献も踏まえ、これまで得てきた知見の提供に、引き続き努めてまいります。

（文化・コミュニケーション：異文化の相互理解が果たす平和な世界の構築）

議長、

ユネスコの使命は、教育、科学及び文化を通じた、諸国民の間の協力促進による、平和及び安全への貢献であることを、改めて我々は認識する必要があります。その中で、異なる文化間の相互理解を深めることは、SDGsの基本理念でもある平和な社会の構築に寄与するものです。

ユネスコは，世界遺産条約や無形文化遺産保護条約を通じ，有形・無形の文化遺産を国際的な枠組みで保護・継承し，もって文化の多様性維持に大きく貢献してきました。

また、「世界の記憶」事業は、重要な記録遺産の保存とアクセスを図ることで、さらなる相互理解のための知識共有を推進する、重要な事業です。我が国は、事務局長に対し、加盟国と協力して事業の包括的な見直しに取り組むよう求めた前回執行委員会における全会一致による決議を歓迎します。我が国は、包括的見直しにおいても責任ある加盟国として、その役割を果たしていきます。

我が国は、ユネスコが、「人の心の中に平和のとりでを築く」というユネスコを象徴する一文に導かれ、本来あるべき道を行くように、新しい事務局長と協力して参ります。またユネスコが加盟国間の友好と相互理解を促進していくよう、引き続き積極的に貢献してまいります。

（民間ユネスコ活動と我が国のユネスコへの期待）

議長、

ユネスコ設立から間もない１９４７年、我が国では、ユネスコ加盟を待たずして、世界初の民間ユネスコ団体が発足しました。当時、戦争の荒廃の中、平和を求める日本国民にとって、ユネスコの存在は未来への希望であり、ユネスコへの支援は世界平和への貢献でした。今年はそれから70年を迎えた記念すべき年です。ユネスコが世界の希望であり続けるために、我が国は、政府と民間の活動が手を携えて、引き続き貢献していきます。私は、こちらに参ります前に、美しく改修された日本庭園「平和の庭園」を訪れ、この想いを新たにいたしました。

（結び）

議長、

ボコバ事務局長の８年間の御尽力に感謝申し上げるとともに、新事務局長の下で、ユネスコ改革が進展することを心から期待するとともに、我が国としても、教育、科学、文化を通じた加盟国の友好と相互理解の促進に、一層努力していくことを誓います。

ご清聴ありがとうございました。

（了）